

ウォーキング

斎宮跡を訪ねて

令和7年2月15日(土)

1. ルート 近鉄斎宮駅～竹神社～野花しょうぶ群生地～ふるさと会館～延命寺～斎宮歴史博物館～斎王の森～いつきのみや歴史体験館～斎宮駅
10.0 km (14,500 歩)
2. 参加者 伊橋健治・喜吉 雄・伝田 貢・中村軍志・中村 衛・濱田 一
6 名
3. ドキュメント

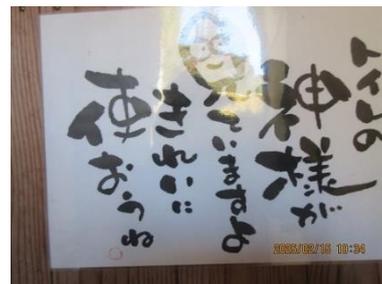
松阪駅と伊勢市駅の中程に明和町が存する。その明和町の広大な地域に斎宮跡が国の史跡として保存されている。近鉄斎宮駅に10時20分降り立つ。当初右回りに歩く予定であったがコンビニや休憩地を考慮して左回りに歩くことにする。



まずは旧参宮街道(旧伊勢街道を)東に向かって歩いていくと元斎宮城址のあったところに榎田川の畔から移されたと言われている竹神社が祀られていた。



竹神社の社



ユニークな注意書き

笹笛川に差し掛かったところで堤防の小径を下っていくと「野花しょうぶ」の群生地に到達する。この時期は冬枯れで荒地と同じ状態であった。地元のおじさんに遭遇していろいろと説明を聞くことが出来た、湧き水がないため夏季は川の水をポンプで汲み上げて沼地のような環境を作って管理しているらしい。6月の開花の頃には多く人が訪れるとのことである。



冬枯れの菖蒲園



説明案内標識



車の少ない絶好のウォーキングコース



伊勢平野の穀倉地帯

菖蒲園で暫しの休憩を摂って笹笛川に沿っての農道を下って歩く。流石、伊勢平野の穀倉地帯とあって見渡す限り田園である。広い車道に出たところで左折して西にコースを取ってふるさと会館の傍にあるスーパーを目指す。スーパーで飲食物を購入してふるさと会館に立ち寄らず、明和町役場の前を通り延命寺に向かう。この2月に入ってから寒波の襲来で厳しい寒さを感じているが今日は風もなく気温も暖かで絶好のウォーキング日和となり、ゆっくりと静かな田舎町の風情を楽しむ。



延命寺の檜で造られた門下ぶり



延命寺の寺院

延命寺に着いたのは 12 時 15 分ごろ、寺の前に来るとビックリ山門が一本の槇の木で造られていた。手入れが大変だろうなと感心する。ここまで来ると齋宮遺跡はもう近い。

読み方

齋宮駅(さいくうえき)

齋宮跡(さいくうあと)

齋宮歴史体験館(いつきのみや歴史体験館)

齋王(いつきのみこ)

昔は『いつきのみや』と呼び現在は『さいくう』と

詠むことが多いようだ

齋宮跡に到達すると「齋宮歴史博物館」の建っている広大な芝生の公園がある。そこで弁当を開けて昼食の時間を摂る。時間は既に 12 時 30 分となっていた。参加者はいつもより少なかったけれどもいつも通りいろいろの話題で会話を楽しんだ。

博物館の写真撮り忘れ・・・



博物館のあるふれあい広場



参加者

齋宮跡とは

伊勢神宮の祭祀を司るために選ばれた未婚の皇族女性が暮されたところで齋宮(いつきのみや)といった。その女性のことを齋王(いつきのみこ)と呼ばれた。9世紀後半から600年以上続いたと言われ、何十年もかけて発掘調査が続けられている。

全国でも屈指の国の史跡である。



発掘調査により再現された建物の模型



いつきのみや歴史体験館

昼食後は歴史の道を通り斎王の森の前から歴史体験館の横に出て斎宮駅に向かう。公園の中は広く時間がかかりそうだったので史跡全体を見ることは出来なかった。再現された模型を見ると相当大きな集落であったことを感じる事が出来る。6月上旬にはしょうぶの開花と合わせて「斎王まつり」が行われるとのこと機会があればまた訪ねてみたいと思う。